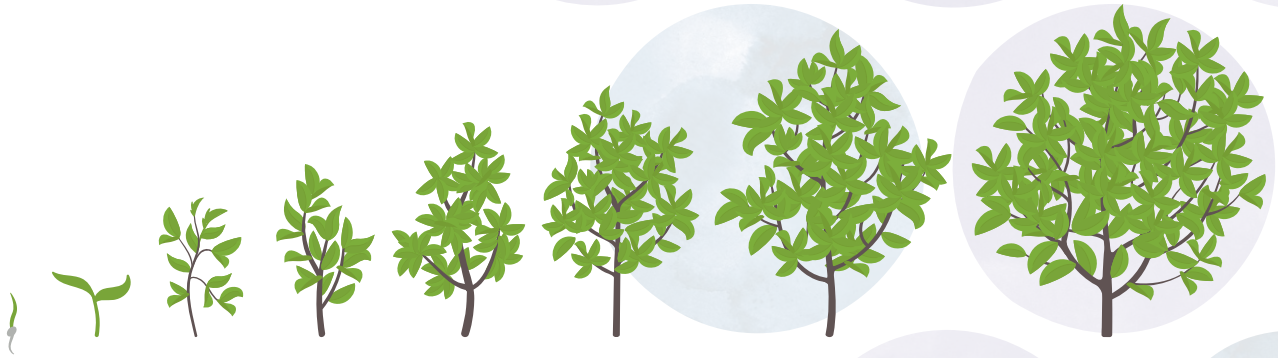


あなたの番です！
「みんなが主役の
福祉のまちづくり」

第4期 山科区 地域福祉 活動計画

令和2年度 ▶ 令和6年度



はじめに

「今、私たちが山科区の地域福祉において 取り組むべきことはこれだと思います！」

住民同士のつながり、挨拶、声かけ、見守り、人づくり、生まれた時から当たり前で共存……。令和元年度「山科区の地域福祉を考える集い」では、なんと70個もの提案が出されました。

少子高齢化や核家族化、価値観や生活の多様化に伴う個人主義の広がりにより、地域では住民同士のつながりが希薄化し、社会的孤立の危惧がますます高まる昨今において、山科区民の「福祉のまちづくり」に向けた意識の高さを改めて実感する機会となりました。

日々地域で福祉活動に取り組まれている方々は、複雑・多様化する地域福祉課題に向き合い、克服しようと挑戦を続けておられます。このような中、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、行政や福祉関係の事業者・団体、ボランティアなど地域に関わるすべての人や団体が連携して、支援を必要とする人を支える仕組みをつくる「地域福祉」の重要性がより一層高まっています。

こうした背景のもと、基本的にはこれまでの地域福祉活動計画と同じ方向を目指しつつ、さらなるステップアップと分野を超えた連携拡大を図る目的で、第4期の山科区地域福祉活動計画を策定しました。ぜひ、計画の理念、趣旨をご理解の上、「みんなが主役の福祉のまちづくり」を実現していくために、皆様も地域福祉の推進にご協力をいただきますようお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定にあたり、ご尽力を賜りました計画策定関係者の皆様をはじめ、集いやヒアリング等で貴重なご意見をいただきました皆様に、心より厚くお礼申し上げます。

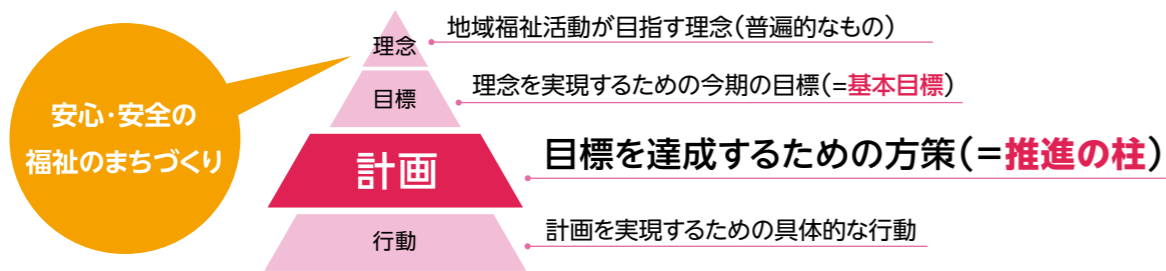
令和2年3月
社会福祉法人京都市山科区社会福祉協議会

はじめに	1
第1章 地域福祉活動計画の概要	2
第2章 第3期 山科区地域福祉活動計画の到達点	5
第3章 基本目標	8
第4章 推進計画 ～推進の柱と推進項目～	9
関係資料	14

第1章 地域福祉活動計画の概要

1 計画の目的

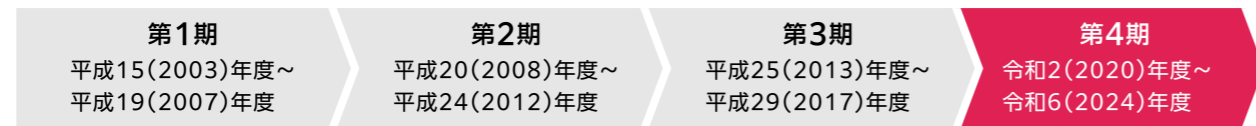
山科区に暮らす一人ひとりが、地域社会を担う一員として「安心・安全の福祉のまちづくり」の実現に向け、各種団体・関係機関等とともに活動を推進していくための行動計画です。



2 計画の内容

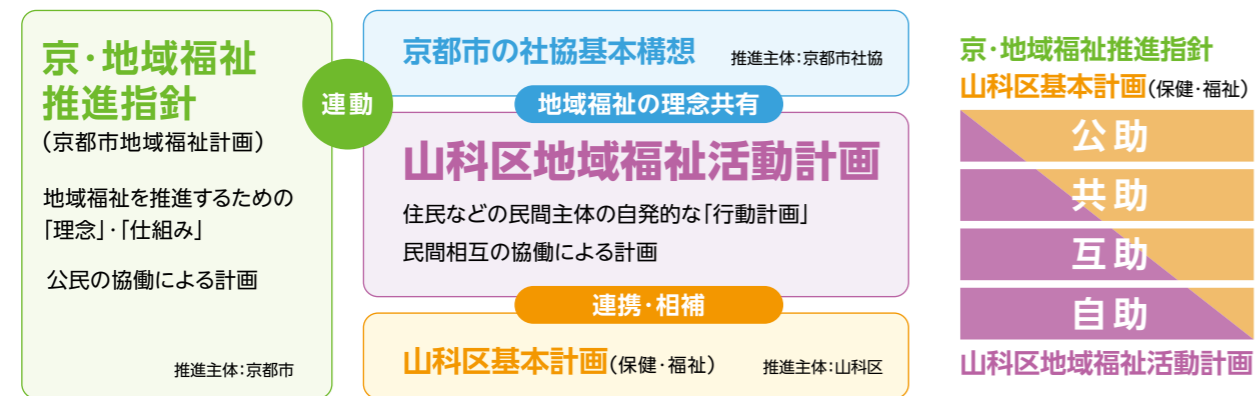
計画の期間

令和2(2020)年4月から令和7(2025)年3月までの5年間で、第4期目の計画です。



計画の位置づけ

京・地域福祉推進指針(京都市地域福祉計画)で定められた目標を実現するために、山科区で地域住民が主体となって取り組んでいく活動の具体的な内容を、地域福祉活動計画として決めました。(関係する計画等と理念を共有し、連動・相補して地域福祉を向上させていくものです。)



社会福祉協議会は、社会福祉法(第109条)で、地域福祉を推進する団体として位置づけられています。

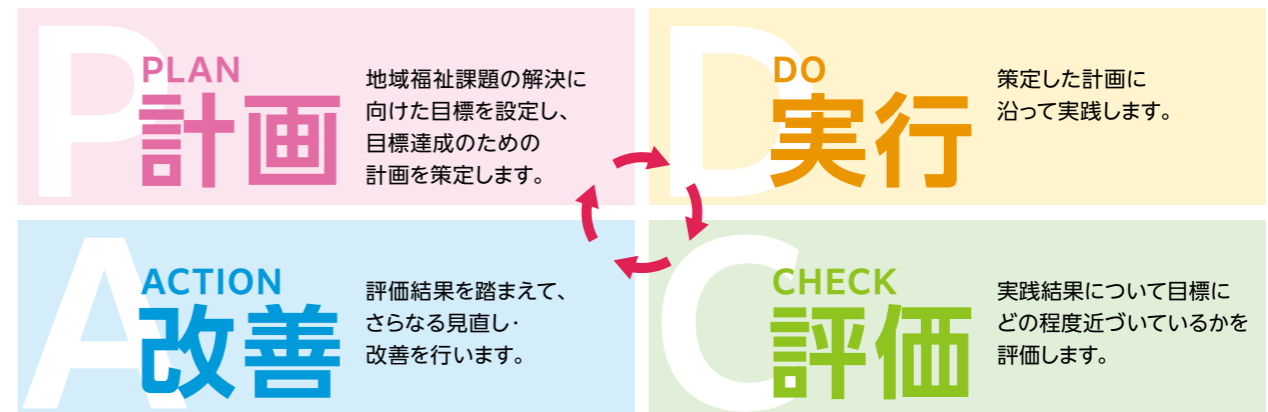
用語解説
公助…各制度におけるサービス提供など
共助…自治会・町内会、各種団体の連携による取組など
互助…近隣での支え合い・助け合い
自助…自分や家族でできること、人とのつながりを持つこと、健康管理・体力維持増進すること

3 計画の周知

計画の周知については、リーフレット、山科区社会福祉協議会ホームページ等で内容を公表します。広く多くの人に届ける工夫により、さまざまな世代への周知を図ります。

4 計画の進行管理

計画は、PDCAサイクルの手法を活用して進行管理を行います。計画に基づいて効果的かつ効率的に活動を実践することで、地域福祉の課題解決を図ります。



さまざまに進められる実践について、把握したものは積極的に区民に発信し、評価・共有の場を経て短期的な目標の達成を重ねながら、基本目標を目指していきます。基本目標の推進の柱を参考に、それぞれの立場でどんな取組ができるかを検討し、多くの方の参画によりさまざまな取組を具体的に進めていきます。

TOPIC 1

PLAN(計画) → DO(実行)への推進力って何?

取組を考えるために、みんなで地域の福祉について話し合うとき、どんなテーマで進めますか? 楽しく、誰もが素直に思いや意見を出し合えるテーマが、具体的な行動につながりやすいかもしれません。

例えば

- 私たちのまちの暮らしは将来どうなっていると思うか
- どうすればいつまでも地域で活躍できるか
- 私たちのまちで心豊かに暮らし続けるためには何が必要か
- 居場所・交流の場・困ったときに駆け込む場所は十分にあるか
- 私たちが築いてきた“今”のまちの暮らしや福祉の良いところはどんなところか また、それを次世代に継承するには何が必要か
- 次世代のために今自分たちは何ができるのか

CHECK(評価)って、意外に難しい。

福祉活動を評価して可視化することはとても難しいです。充実感・満足感・安心感の度合いは個人差が大きく、あえて表現することも少ないので、評価指標もつくりにくいのです。誰にでも簡単に成果の確認ができる指標が見つければ、スムーズに推進できるかもしれません。

例えば、

- **個人一人ひとりが成果を確認できること**
 - 自身の生活範囲に広がりが見られたか
 - 人とのつながりができたり深まったりしたか
(顔を合わせる、気兼ねなく話せる、助けを求められるなど)
 - 自身の地域での暮らしに安心感を高められたか
- **個人の活動・ボランティアを通して成果を確認できること**
 - 社会的役割、生きがいが増えたか
 - 福祉課題や制度についての学びが増えたか
 - 地域課題の解決に向けて不安や悩みが減ったか
- **地域福祉活動団体が活動を通して成果を確認できること**
 - 新しいメンバーの参加があったか
 - プログラムが広がったか
 - 他の団体・活動者・関係機関・行政との連携が進んだか
 - 団体の活動資源とその入手先が増えたか
- **社協が活動を通して成果を確認できること**
 - 住民からの相談・情報提供、活動や企画の提案が増えたか
 - 新しい活動者や団体とのつながりが増えたか
- **専門職が活動を通して成果を確認できること**
 - 他分野との連携が進んだか
 - 地域における公益的な取組が増えたか
 - 住民とのつながりが増えたり広がったりしたか
- **行政が活動を通して成果を確認できること**
 - 地域福祉活動実践に対して行政参加の機会が増えたか
 - 領域横断的な施策・機能強化がされたか

1 学区(小学校区)域を中心にした地域福祉活動計画の推進

学区社協・学区民協を中心に学区単位で特色ある地域福祉の取組が進められました。

1. 見守り・居場所づくり・相談活動による「地域の絆づくり事業」と活動拠点の拡充

さまざまな学区社協活動が充実し、さらに平成24年10月からは、「見守り」「居場所づくり」「相談活動」が学区社協において推進され、全学区で活動に取り組みられました。

2. 地域福祉課題の把握とネットワーキング

学区ボランティアセンターによる支援とつなぎの実践、地域だけでは解決できない地域課題を専門職につなぐ仕組みが整えられてきました。

3. 学区ごとの重点目標の設定

学区社協活動を重点的に推進するために設定された目標が概ね達成されました。

学区内で住民の意見を聞く機会をアンケートや住民懇談会等で設けて、地域課題を把握し、学区社協活動への反映に努められました。

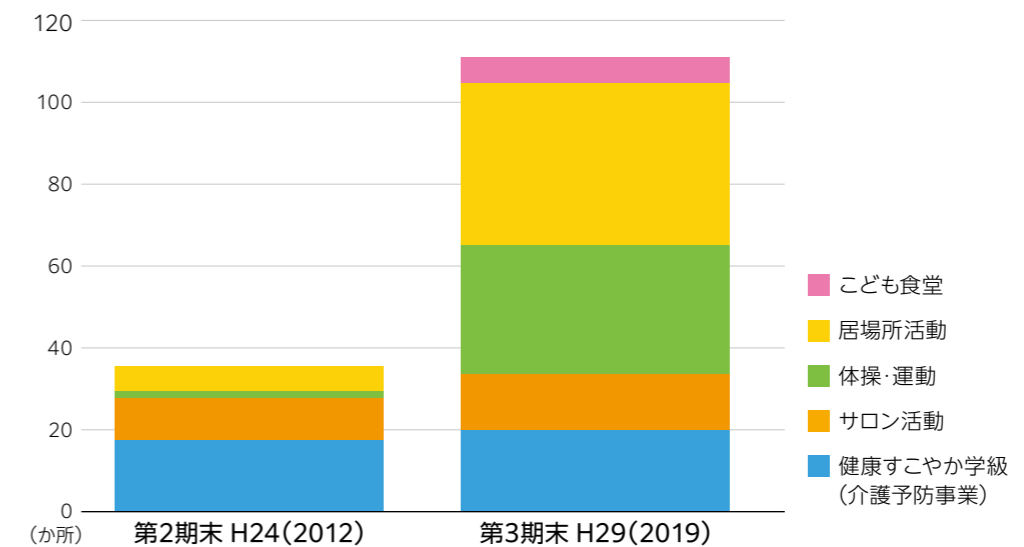
さらには、住民に共通の地域課題である“災害”に備えて、災害時にみんなで助け合えるように日頃から顔の見える関係づくりを増やしておきたい、という思いから、学区内で世代間交流の機会を増やしたり、小学生が地域福祉に触れる機会が増やされたりしてきました。

2 区域を中心にした地域福祉活動の推進

1. 山科のボランティア活動の活性化

組織で活動するボランティア団体に加えて、数人単位の小さいボランティア活動が区内各所に増えて、100か所を超えるまでになりました。

山科区内「通いの場」拠点数の推移 (山科区地域支え合い活動創出コーディネーター調べ)



また、地域の居場所が助け合いの拠点となり、互助の関係が育まれています。顔の見える関係ができたことで、「お互い様」の気持ちを芽生えさせました。

「なかよし会」では、生活の楽しみの場としての居場所活動だけでなく、居場所を拠点に、気になる単身高齢者の見守り・安否確認をしたり、生活の困り事・心配事の相談なども交わされたりしています。

「ジュネスサロン」では、安否確認の活動からみんなで集みたいとの声を受けて居場所活動が始められました。

平成28・29年度 山科区の地域福祉を考える集い実践報告より



居場所活動の様子



安否確認活動の様子

さらに、小学生・PTA・ボランティアグループ・郵便局・銀行・コンビニエンスストア・企業等さまざまな世代・立場の人が認知症サポーター養成講座を受講し、認知症にやさしいまちづくりが進んでいます。

また、急増する高齢者に対して、住民誰もが始められる取組として、できる人ができる事でできる時にお手伝いする「地域支え合い活動」の推進も始まりました。あわせて、支援を要する高齢者・障がい者の中には、支援を受けるだけでなく、人の役に立つ事をしたいと考える人が増えてきました。

こうした住民による地域活動が活発に進められ、市域において事例紹介をしたり、他都市から問合せを受けたりするなどした先駆的な取組も生まれました。

- 陵ヶ岡学区「ちょっと困りごと支援隊」(平成27年度地域福祉・ボランティア活動カレッジ(京都市社協主催))
- 安朱学区社協の地域福祉推進における社協と民生委員との連携について
(平成28年度地域福祉推進セミナー(京都市の社協・民協合同研修))
- フリースペース絆at“おおつか”実践「地域のまちづくり事業」への参画
～生活の再構築を支援するエキスパート集団としての強みを活かして～
(平成28年度慢性期医療学会 洛和会音羽リハビリテーション病院)
- 居場所を中心とした地域と支援学校との協働活動
(平成29年度京都市福祉ボランティアセンター発行 地域の住民や福祉施設とともに進める福祉教育事例集)
- 安祥寺中学校区かぎ預かり事業(平成30年度地域福祉推進セミナー(京都市の社協・民協合同研修))

2.アウトリーチを生かした当事者支援活動の充実・強化

社会的孤立防止のためのフリースペースの実践が広がり、さまざまな場面で各種団体・事業所等の連携が進められてきました。

相談機関・専門職が地域に出向いて支援する機会が増え、生きづらさを抱えた人の生活課題の顕在化が進み、今まで制度・施策の狭間で気づかれなかった人に対する支援の必要性が関係者に共有されることも増えました。

3.山科の福祉情報の流通と区社協の基盤強化

世代・対象者に合わせた周知・情報発信の方法について検討が進められました。

住民組織の地道な取組で地域の福祉が組織的に支え続けられてきました。しかし、他区と同様に担い手の高齢化や担い手不足で継続が難しくなっています。各種団体では創意工夫を重ねて次世代の担い手養成が試みられ、ゆるやかではありますが世代交代も進められてきました。

また、住民組織による地域を守り支える活動を知らずに、自治会・町内会を脱会したり、未加入の世帯が増えている現状に対しては、住民自治の大切さや地域で進める福祉のまちづくりの良さを伝え、自治会・町内会への加入の促しが地道に続けられています。

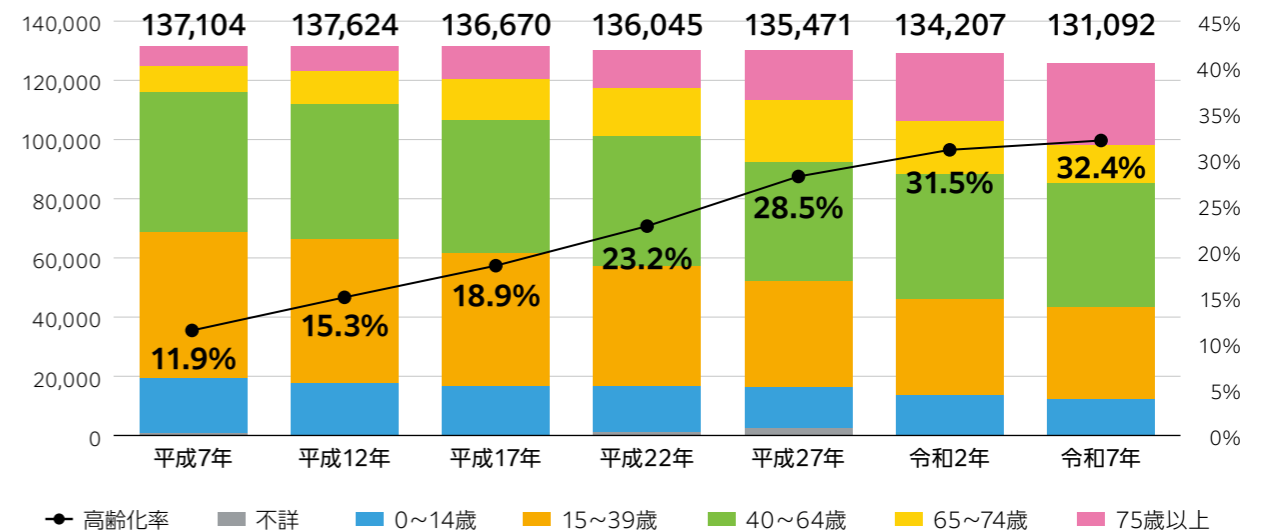
区社協では、必要な福祉の支援・施策や社会復帰へつないだり、制度・施策の隙間で支えたりする事業が増え、支援の幅が広がりました。また、災害ボランティアセンターの整備も進めました。

このように、第3期までにさまざまな成果が得られました。個人主義が進み、他人との関わりが減っていると言われている昨今ではありますが、山科区全体に「地域で福祉を高める」意識の高い活動者が多く、特色ある活動が各所で行われています。増え続ける単身高齢者の孤立防止の見守りや「通いの場」の活動、子ども食堂・学習支援等地域で子どもを支える活動、生活困窮者世帯の子どもたちが抱える課題に向き合う活動など、課題意識を持って取り組まれる活動が広がっています。また、社会福祉法人や企業においては、地域貢献の取組も始められています。

しかしながら、支援を要する高齢者や障がい者、生活困窮者等は増加し、あらゆる世代が社会的に孤立しやすい状況であることも把握されてきました。また、生きづらさを抱える人の生活課題は、複雑化・深刻化を増し、家族やご近所の支えだけでは解決に向かえないことも多くなってきました。

山科区では、高齢者数も高齢化率も上昇を続け、認知症の人も増えています。2025年には、団塊の世代が後期高齢者となる時代を迎え、生活に支援を必要とする人はますます増え続けることが予想されます。障がいや持病があっても、地域で自分らしく生き生きと暮らせる環境を整え、誰もが役割や生きがいを持って心豊かに過ごせる“地域共生社会”を実現することが求められています。

山科区の人口と高齢化率



京都市統計書 行政区将来推計人口より

第4期の計画では、各個人・各団体がそれぞれの範疇の中で取り組むだけでなく、区内のさまざまな個人・団体・関係機関が連携して取り組み、お互いの強みを活かした多彩な活動で可能性を広げることで、地域の福祉の充実を図ります。また、子どもから高齢者までより多くの人の力で福祉のまちづくりが進められることや、誰でも地域に役割や生きがいを持って、楽しく暮らして心を豊かにする環境を整えることに挑戦してさらにステップアップし、山科区らしい地域福祉の推進を目指します。

1

みんなが、地域に役割や生きがいを持って福祉のまちづくりに参加できる取組を進め、災害時の助け合いにも活かせる強いつながりづくりに努めます

2

さまざまな個人・団体・関係機関などが地域でつながり、住民の暮らしの充実や安心を実感できる仕組みづくりを進めます



基本目標
1 みんなが、地域に役割や生きがいを持って福祉のまちづくりに参加できる取組を進め、災害時の助け合いにも活かせる強いつながりづくりに努めます。

推進の柱 1

地域を支えている福祉活動を、見て・知って・関わる取組を進めます。

地域のさまざまな福祉活動の見える化を行い、福祉活動の楽しさとともに広く発信して、あらゆる世代の住民に理解を広めます。また、地域を支える一員として、地域の福祉活動を“自分事”としてとらえ、さまざまな形で参加できる機会の提供を行います。

推進項目

- 学区社協活動を中心とした地域での福祉活動を、さまざまな媒体で発信し、知ってもらう機会を増やします。
- 子どもから高齢者まで、地域の福祉活動に楽しく参加できる機会を増やします。
- 地域の福祉について、自分事として考える機会の提供を行います。

推進の柱 2

できる人ができる時にできる事で支え合う活動を多様な形で広げます。

あらゆる年齢層を対象に、「お互い様」の関係を広げる活動を促進します。そのため、要配慮者(病弱高齢者・認知症・障害児者など)のできる力を地域の福祉のために活かす環境を整えるなど活躍の機会をつくります。

推進項目

- 地域支え合い活動を高齢者同士だけでなく、住民みんなで取り組めるように広げます。
- 支援が必要な人も、誰かの力になれるよう個性や強みを活かせる環境を整えます。
- ご近所での「お互い様」の関係を築ききっかけづくりと、災害時の「助け合い」へ活かせる仕掛けづくりを行います。

推進の柱 3

子どもたちに「世代を超えて人とつながり支え合うことの大切さ」を伝えるために、地域や福祉に関わる機会を増やす取組を進めます。

子どもたちが、地域行事や福祉活動の体験を通して地域の大人から学ぶ機会をつくり、地域への愛着や住民同士のつながりを大切にできる心を育てていきます。また、子どもたちが地域の身近なところで福祉活動を実践できる環境を整え、地域の力となる機会をつくっていきます。その経験の積み重ねで、地域を支える担い手の次世代が育成されていくことを期待します。

推進項目

- 各種団体・学校・福祉施設・商店・企業等が地域の大人たちとして、地域行事の運営や地域福祉活動の体験・参加の機会に、地域の子どもたちに「地域でつながり支え合うことの大切さ」を体感してもらえるよう伝える工夫に努めます。
- 「地域福祉活動」を取り上げた福祉教育プログラムを作成し、さまざまな機会に提供できるようにします。

推進の柱 4

学区ごとに設定された重点目標の達成に向けて、 学区に暮らすみんなの力で福祉のまちづくりを進めます。

各学区の実情に合わせて福祉の充実に向けた目標設定が学区社協を中心に行われました。目標の達成に向けて、学区全体で取組を進めます。

学区	重点目標	具体的に取り組む内容
勸修	顔の見える関係づくりを広げよう 地域に出て毎日楽しく元気に!	<ul style="list-style-type: none"> ● 単身高齢者・高齢夫婦世帯への社協活動の情報発信 ● 夫婦で参加できる企画の施行 ● 地域で楽しく元気になる活動づくり
山階	三世代でつながりを一緒に ～常に一声、声かけを～	<ul style="list-style-type: none"> ● 既存の活動の内容をあらゆる世代のつながりが作れるように見直す ● 福祉委員などに活動を伝えていく ● 子どもたちへの活動を通してPTAやおやじの会ともつながりをつくり連携する団体を広げる
鏡山	広報等の情報発信を充実させ、住民同士がつながれる取組をすすめ、地域内に学区社協の活動をひろめます 各種団体と連携して世代間交流に取り組み、気くばり・目くばりを続けながら、次世代に学区社協の役割を引き継いでいきます	<ul style="list-style-type: none"> ● 学区社協活動が遅滞なく実施できるよう情報共有する ● 広報(情報提供の機会)を年2回作成 ● 福祉の集いの対象者を全世代へ広げた内容に変更 ● 要配慮者支援を実際に体験して、各種団体との共通認識を持つ ● 身体障害者とのふれあいの機会を積極的に作る
音羽	地域に密着。 身近な小さなことから、学区の成果など様々な情報を繰り返し発信し続ける	<ul style="list-style-type: none"> ● 福祉活動について、学区内に繰り返し周知し、関心を持ってもらう(6年無火災・熱中症対策など) ● 既存の事業を全世代対象の内容に見直す(会食会+防災訓練など) ● 個人情報について、専門職や各種ネットワークとの共有を模索する
安朱	次世代へつながり続ける取組をつくります 顔の見える関係づくりの構築を、自治連合会・民児協・各種団体とともに考え、一緒に取り組むことで社協の役割を見つめ直し、活動の基盤を整えます	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分達で成し遂げる達成感を大切に、無理なく楽しく活動する体制づくりを確立する ● 定期的に行う事業は今まで通りに、単発で行う事業については目的・世代・男・女がとどいやすい内容を工夫し変化をもたせる事で参加者に幅をもたせ顔の見える関係づくりにつなげる ● 情報が一方通行とならないよう、社協が気づいたことを民協と共有し、多層的な見守り体制をつくる
陵ヶ岡	住民すべてが関わるような対象を限定しない活動・居場所づくり 支援する側・される側関係なくお互いに助け合う関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● フリースペースの多様な活用方法を検討する(映像を使ったレクリエーションなどプログラムの充実や施設利用者にも来てもらうなどの施設との連携を強める) ● 関係機関と連携し会場を増やし、地域に出向く居場所をつくる ● お互いに支え合える相互扶助の関係・構造づくりで、住民が幸せに長くいられるよう顔を繋げる

学区	重点目標	具体的に取り組む内容
大宅	若い時から地域のつながりを楽しく・大切なものにしていく取組をすすめます 社協の活動を広く知ってもらい、理解者を増やし、参加・協力を促します	<ul style="list-style-type: none"> ● 機会ある度に、学区内で社協を知ってもらうよう努め、幅広い世代に社協活動への理解者を増やして、参加者や担い手につなげる ● 理解者・協力者が増えたら、急増する“助けを必要としている高齢者”のための事業を強化していく
山階南	地域で一つになろう! ふれあう・支え合う活動を推進し、全世代がつながる機会を増やします	<ul style="list-style-type: none"> ● あらゆる世代をつなぐ役割 ● 各種団体・関係機関との連携強化 ● 活動・運営の見直しで、住民主体の絆づくり
百々	組織・活動の活性化 ～みんなでいこか!楽しく無理なく参加できるように～ 社協と民協を柱に 各種団体と密に連携する	<ul style="list-style-type: none"> ● 参加者が増えるように、地域を見ながら現状にあったプログラムや日程を検討する ● 男性向けの活動に取り組む ● 他団体との情報共有や協議の場の設定を図る ● ちよいボラ(学区ボランティアセンター)の見直し
大塚	ご近所みんなで見守り、寄り添い、支え合える」関係づくりを促します 地域で一体となって、関係機関とも連携しながら、福祉のさらなる充実に向けた取組をすすめます	<ul style="list-style-type: none"> ● 身近で誰もができる見守り、支え合いの実践を機会ある度に促す ● 学区内の自治会・各種団体・関係機関と共に、住民と対話できる機会をつくり、今の住民のニーズを踏まえて必要な取組を関係機関とも協働してすすめる
小野	各種行事への参加者を増やし、顔の見える関係づくりや担い手の確保に努める	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域に関心や目を向けてもらえるよう各団体と連携しながら、検討・工夫していく ● 行事への参加などを通してできた顔の見えるつながりを継続していけるような活動を続ける ● 地域住民や各種団体との普段からのつながりをより強めるように努める
音羽川	各種団体に福祉(社協)の大切さを知ってもらい学区全体の連携を深める 横のつながりを大切にしながら次期世代教育 見守り名簿のさらなる充実 災害にも生かせる全世代交流を図る	<ul style="list-style-type: none"> ● “報告”ではなく“情報交換”の場を作り、各種団体と連携する ● 最初の仲間づくりの場を提供し、気の合う仲間での活動が育まれる環境を整える ● 役員へは、「現場に出て人を動かし、人を見る」ことの必要性を実践を通して伝える ● 昼間のみ独居という情報を名簿に追加していきたい ● 災害時の戦力となる中高生との連携強化し全世代交流を目指す
西野	楽しく地域でボランティア活動ができる機会を増やし、ボランティアの楽しさを共感できる地域づくりをすすめます	<ul style="list-style-type: none"> ● いざという時に機能する組織づくりをめざして、長期的に防災への取組を重ね続ける ● 地域の活動に楽しく取り組む機会を増やし、隣近所が仲よく支え合える暮らしを広げる

さまざまな個人・団体・関係機関などが地域でつながり、
住民の暮らしの充実や安心を実感できる仕組みづくりを進めます

推進の柱 1

生きづらさ・生活のしづらさを感じて困っている人に、
それぞれの立場で関心を寄せる機会づくりを進めます。

推進項目

- 一人ひとりが、地域でともに暮らす人への「気づき」を増やす取組を促進します。
- 最も身近で変化に気づきやすい人(ご近所・福祉委員等)に「気づき」を促す働きかけをします。
- 住民だけでなく区外から日中仕事や学校で通っている人たちにも地域に関心を寄せてもらう工夫を重ねます。
- 同じ地域に暮らしているが人と人の接点が少ない現状を分析し、それぞれの立場で関われる機会を増やし、つながるきっかけをつくれるよう努めます。

推進の柱 2

生きづらさ・生活のしづらさを感じて困っている人に、
地域で身近な人が気づき、つなぎ、支える仕組みづくりを進めます。

推進項目

- 学区社協・学区民協・老人福祉員をはじめとする地域の福祉活動者が、地域の人の「気づき」を「支援につなぐ」仕組みづくりを行います。
- また、地域のつながりの中で「見守り」「支える」ことのできるゆるやかなネットワークづくりを行い、支える人も支えられる人も孤立しない環境づくりに努めます。

推進の柱 3

生きづらさ・生活のしづらさを感じて困っている人に、
多様な関係者が関わり、支える関係づくりを進めます。

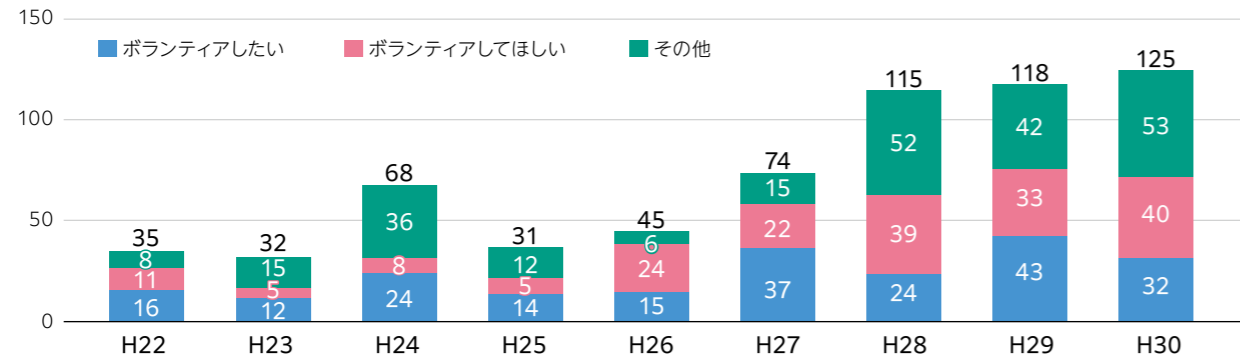
推進項目

- 複合的な課題を抱えた人に対しては、適宜、相談機関・専門職・NPO・ボランティアグループ・当事者組織・行政・その他さまざまな関係者が、地域とともにネットワークを築いて重層的に見守り・支援できる関係づくりに努め、さまざまな知識・経験等を持ち寄って多彩に関わり支援していきます。
- 生活の多様化に合わせて生活課題もさまざまであることを認識し、固定概念を持たず、ありのままを受け入れ、寄り添い、課題解決策を検討できるよう、分野を超えて多角的にとらえて連携できる関係を構築します。

関係資料

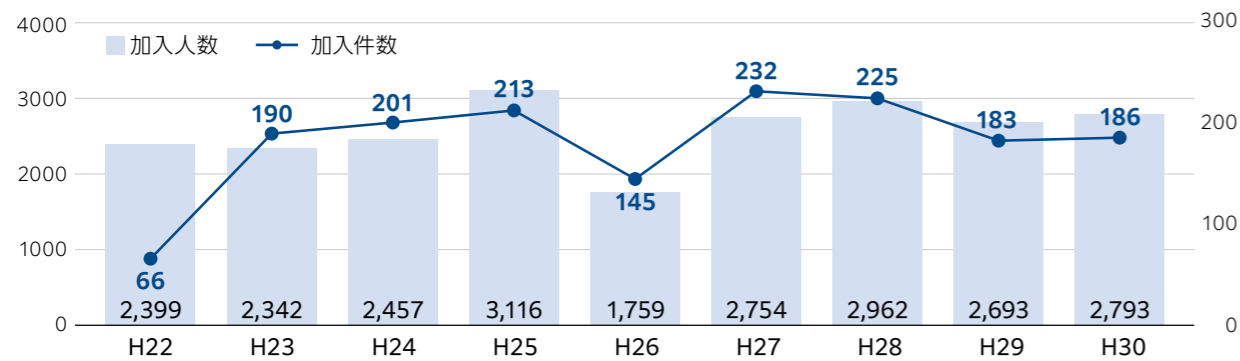
1 ボランティア活動の推移について

山科区社会福祉協議会ボランティア相談件数推移(件)



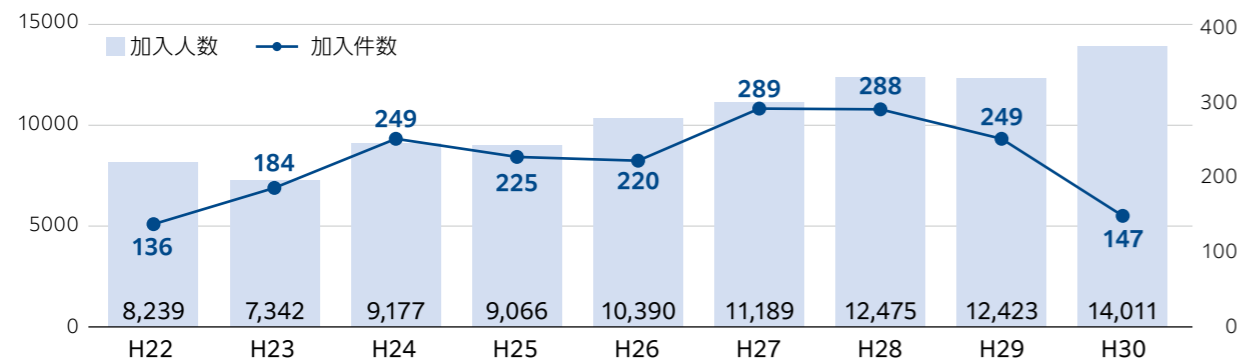
● ボランティアに関する問い合わせが増えています。ボランティアしたい人もしてほしい人も近年増加しています。

ボランティア保険加入数(山科区社会福祉協議会受付件数)推移



● 活動者のボランティア保険加入数は近年横ばい状態です。ボランティア保険に加入し継続した活動を行う活動者は緩やかに減少し始めています。

行事保険加入数(山科区社会福祉協議会受付件数)推移



● 福祉活動の行事数は減少、行事の参加者数は増加の傾向です。活動者数が増えない状況下で、少ない行事でより多くの人に参加できる活動へのシフトが見られます。

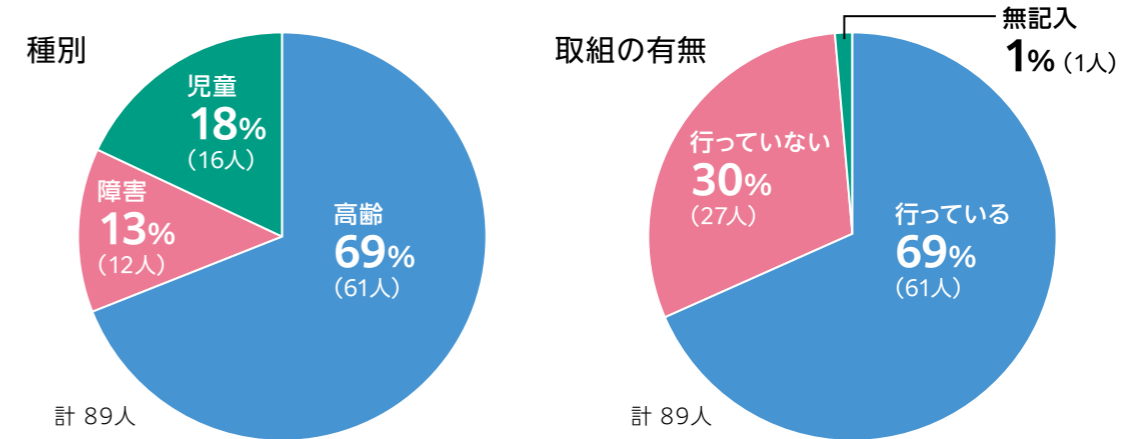
ボランティアしてほしい人やボランティアしたい人の問い合わせが増える一方で、従来の行事にはボランティア不足が課題となっています。行事への参加者も増加傾向にあり、調整・コーディネートが急がれます。

2 地域における公益的な取組について

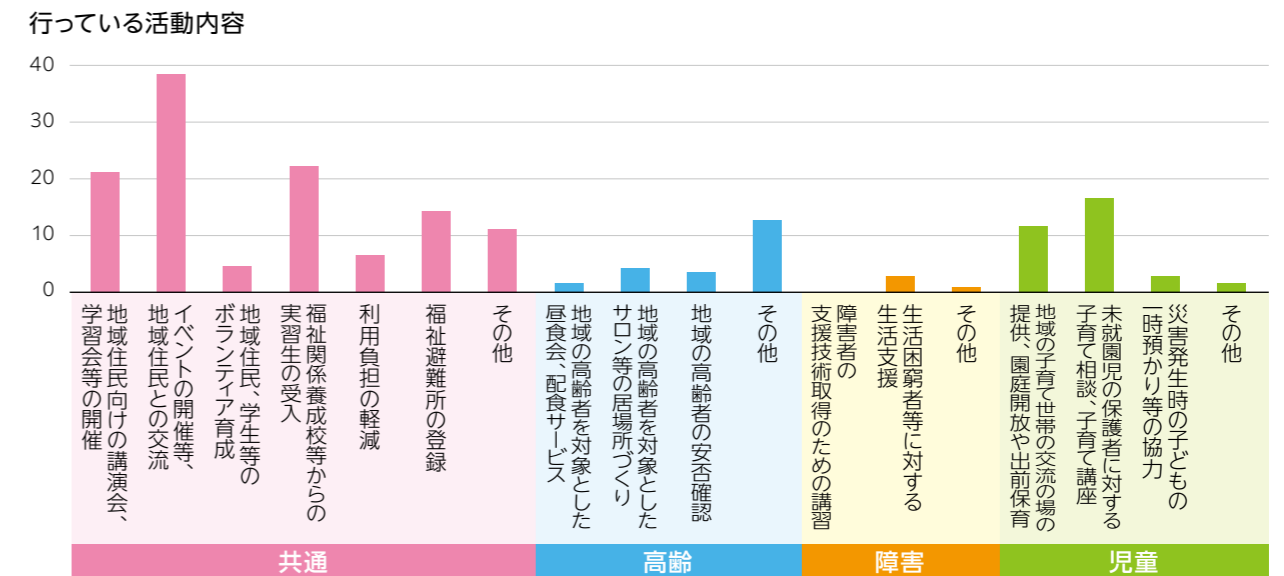
山科区の社会福祉法人の「地域における公益的な取組」の現状

実態アンケートの実施(令和元年9月6日~24日:山科区内253事業所に依頼し89事業所より回答(回答率:35%))

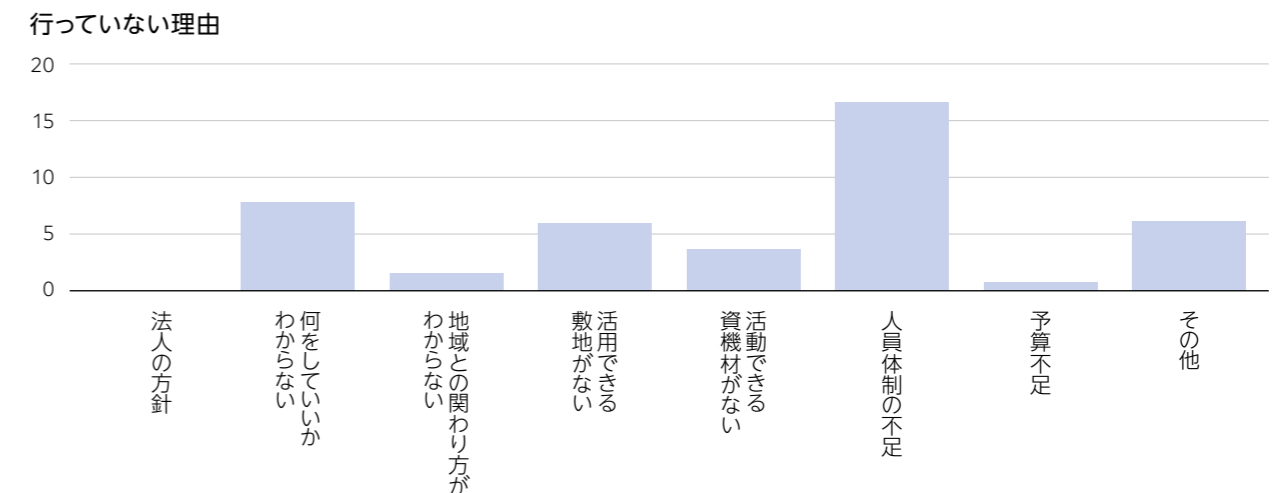
1. 「地域における公益的な取組」につきまして、現在、行われていますか。



2. 「行っている」と回答された方にお聞きます。どのようなことを行われていますか。



3. 「行っていない」と回答された方にお聞きます。行えていない理由はなんですか。



3 住民の課題意識について

「今、私たちが山科区の地域福祉において 取り組むべきことはこれだと思います！」

令和元年度山科区の地域福祉を考える集い アンケートより

孤立

- やはり、ひとりで参加されない人を誘うこと。
- 一人住まいの人がどうしても家にもこもりがちになるので、町内の近所の人が道で会ったら声をかけてあげること。
- ひとりぼっちの人もいざという時には地域包括支援センター等助けてもらえる所があると知ってもらいたい。
- 困った時は「必ず助けてくれる機関や団体や個人がいる。」ことを、全ての人に知ってもらうことだと思います。
- 一人暮らし高齢者の居場所への集い
- 特に独居老人の問題に取り組んでほしい。
- 公的支援を受ける場所があるので聞いてあげて孤立している人にも手が届くようにしてもらう。
- 友達との付き合いもなく町内会にも地域にも参加しないということで孤立していくと思う。
- 一人暮らしの人の安心。

連携

- 相談機関を通じてもう少し入り込めたら。
- たくさんの方が区のために頑張っているのに、縦のつながりをしっかりつないで広がればと思っています。
- 山科区では地域のつながりがとても強いと感じています。分野別でなく皆がつながり何かができたらよいと思う。
- いわゆる困難ケースの支援体制の構築。
- 本当に必要な人に利用できる制度が早期に届くような申請の流れ
- 必要な支援につなげるしくみの構築。
- 横の連携だと思います。
- 地域を支える様々な機関の取組を相互に知る、理解することが大切だと思います。
- すぐには解決できなくてもつながりが持てる関係を築いていけると良いと思いました。

身近な 取組

- 地域の人に身近に感じてもらう地域貢献事業。
- 必要な人がスムーズに利用できるように身近に感じてもらう取組み「あそこやったら行こうかな」
- もう少し細かい地域で居場所を作る事。
- 年齢を超えて気軽に立ち寄れる場所づくりができればいいなと思います。
- 老若男女問わず参加しやすい行事があればいい。
- 知り合いを増やす。
- 小さな出合いを大切に。
- 小さなグループの関係づくりから少しずつ大きなグループへ関係づくりを拡大していくこと。
- 学区内に小さい単位の居場所ができ、つながり合えるよう工夫してほしい。

声かけ

- まず、声掛けだと思います。
- 地域住民として近隣の“声かけ活動”の徹底が大切。これなら誰にでも簡単にできてより大きな効果が得られると思う。区民全体で、「声かけのできる街、山科」をキャッチコピーとして取り組んではどうでしょうか。
- 一人暮らし、高齢夫婦世帯等に対して、非常勤特別職公務員である市政協力員が配布物を班長任せにするのではなく、自治会加入・未加入に関係なく「お元気ですか？体調はいかがですか？」と声掛けを日常的に行うこと。
- 今迄に地域包括支援センターに提供した「単身高齢者・高齢夫婦世帯・障害者等の情報の共有」が大切。
- 地域のできる範囲での声かけ・見守り。
- 向こう三軒両隣の声掛け・目配り。
- 声をかけることで人を知り得ると思いますので声掛けの機会を作っていくかねばと思います。
- できるだけ声かけをしてお互いに寄り添い話ができるような機会を作る。
- 家に入れてもらえないので困っている点。外からだけの見守りでは物足りません。

自助 ・ 互助

- 一人一人が「新しい事にチャレンジ」→「そこから何かを知る・学ぶ」ということかも。
- 自宅以外にも、自分の居場所を作っておく。
- 自分にできる事をする事で人と関わるのではないかと思います。
- 元気な高齢者がたくさんいて運動や趣味に参加されています。そんな中には、ちょっとだけでも人のために動けたらと思っている人がいると思います。そんな人の力を借りるのにはどうしたらいいのかいつも思っています。
- 外からは見えにくい「困っている人」をどうやって見つけてあげられるのかを考えています。
- 地域で、誰にでも挨拶ができるようになればと思います。
- 隣近所の付き合いを大切にしたい。
- 地域住民同士のつながりづくり。

人づくり

- 地域福祉は本当に難しい。人材育成が必要でないか。若い人から高齢者までずっと人材がいると思う。個々それぞれの問題に対応するには一部の人のみでは難しい。
- 知り合いを増やす。
- 小さな出合いを大切に。
- 教育とのつながり、子どもとのつながりを持ってたらと思います。
- 若いボランティアの育て方を今後考えていかないといけないと思いました。
- 自分は自分、他人は他人だけど、行政の手助けを必要とする人は一定数存在する。究極的には人づくりでしょう。子育て、教育、地域経済の活性化等へつながっていくと思います。
- 高齢者が増える中、元気で生き生き楽しく過ごせる居場所づくり、人づくりだと思います。

見守り

- 見守る目をたくさん作る。
- 日頃から地域での見守り等を意識して暮らす。
- 高齢化問題。一人暮らしの方を見回り、異常を早く見つけたい。
- とりあえず見守りが大事であると思う。一人で困った時につながりができるようにすべき。

共生

- 一人一人の気持ちを考えて、皆さんの事が大切だと思います。
- 健康者障害者全ての人々が当たり前で生活できる山科でありたい。
- 生まれた時から共存が当たり前という教育も必要。

情報 共有

- 地域情報を共有することが大切。
- 情報を集めるのもいいですが、集めた情報をいかに知らしめるかが問題だと思います。防災関係で困難者等の情報を集めていますが、家族以外には知りません。知らされていないので公開できるかできないかプライバシーの問題もありますが考慮してほしい。
- 人と人が近所づきあいをしていく上で情報の共有は欠かせないが、社会の仕組みや個人の生活様式が変わることや年々難しくなっている。昔に戻るわけにはいかないが、新しい枠組や取組を考える必要があると感じる。

周知

- 個々の取組を一般に対してももっと啓発すべきである。
- 山科区の地域の方々(町内会・民生委員・老人福祉員・社協など)は様々な取組を熱心にされています。これらの取組を「生活の保険」として理解してもらうため、非町内会員の方々へ伝える事啓発する事をもっともっと工夫して取り組んでいかなければいけないと感じました。

自治会

- 町内会に入る人を増やす取組や町内会がなぜ必要かの啓発活動。
- 「町内会」を身近な交流の場とするよう、町内会の役員があたっても断らないような無理のない町内の運営をするべき。(町内会の用事が多すぎると感じている人が多い。)
- 自治会に加入しない人、やめる人をどう考えるか。災害時を考えると知恵を出し合う必要がある。
- 町内会に全世帯が入会できるような働きかけが必要だと思います。
- 町内会活動の活性化や町内会での取組等も考えていきたい。
- 町内会に参加ができない、またはしないことが問題。(個人情報の問題)
- 町内会から抜けないようにすること。近所・地域の横のつながりをもっとつくること。
- 町内会などの環境に子どもの頃から馴染みをもてるよう教育に導入すべきであると感じた。
- 町内会に入ることを義務化するなどができれば、地域の人も活動してもらいやすくなるのではないかと。
- 独居老人が町内会から抜ける事をどうするか。

各種団体の 見直し

- 町内会や老人会等の各種団体ができるだけ関わっていくことによって横のつながりができるので多くの人に呼び掛けて会員等を進めていくこと。
- 各種団体の横のつながりの見直しをすること。
- 各種団体が現状について共通の認識を有した上で連携して社会福祉・地域福祉の推進に取り組むこと。

その他

- キーワードは「おせっかい!」、ネットワークづくり、積極的なボランティア精神。
- 老々介護の暮らしの安心。
- オートロックマンションの人に自分達は「このような活動をしています。」と知ってもらう活動をしようとしています。
- 何事もコツコツと気長に対応するしかないのでは。人との関わりのあり方を再認識する。
- 家事に地域活動に忙しく、じっくり考え取り組むことが少ない。まず立ち止まって何をすべきか考える機会も必要。
- 赤ちゃんウェルカム。若いお母さんのサポート支援強化やプレゼント。
- 単身高齢者へ「長生きしてくれてありがとう」プレゼント。
- 障害者のピックアップが大切ではないか。
- 制度施策の狭間で関わりの難しい問題全てです。

山科区の人口・世帯数の推移（学区別）

年度	学区	勸修	山階	鏡山	音羽	安朱	陵ヶ岡	大宅	山階南	百々	大塚	小野	音羽川	西野	山科区	京都市
昭和51年度		14,336	15,306	16,356	17,047	7,662	14,233	15,294	10,013	11,475	7,973				129,695	1,461,573
		4,126	4,788	5,624	5,323	2,648	5,035	4,247	2,981	3,526	2,448				40,746	477,296
昭和55年度		12,002	15,545	15,355	10,036	7,032	12,901	15,905	10,468	12,148	10,808	6,257	7,861		136,318	1,473,065
		3,847	5,303	5,604	3,445	2,634	4,683	4,843	3,217	3,958	3,507	2,148	2,711		45,900	523,708
昭和60年度		12,591	8,490	14,517	10,160	6,777	12,005	16,462	10,473	12,127	11,609	7,431	7,836	6,476	136,954	1,479,218
		4,210	3,023	5,317	3,445	2,593	4,405	5,105	3,315	3,940	3,638	2,334	2,754	2,220	46,299	534,821
平成2年度		12,904	8,076	13,824	10,179	6,244	11,953	16,803	10,603	11,678	11,744	8,295	7,599	6,168	136,070	1,461,103
		4,508	3,078	5,193	3,668	2,389	4,408	5,653	3,422	3,843	3,832	2,696	2,725	2,220	47,635	552,535
平成7年度		12,419	8,165	14,081	10,040	6,014	11,514	17,089	10,792	11,736	12,778	8,680	7,412	6,384	137,104	1,463,822
		4,612	3,310	5,731	3,877	2,550	4,415	6,108	3,703	4,113	4,417	2,984	2,724	2,407	50,951	586,647
平成12年度		12,704	7,642	13,617	9,583	6,237	11,279	17,941	10,381	11,598	12,835	9,753	8,202	5,852	137,624	1,467,785
		5,129	3,423	5,676	3,882	2,829	4,431	6,589	3,841	4,223	4,617	3,468	3,239	2,394	53,741	620,327
平成17年度		13,197	7,315	12,906	8,918	6,286	11,384	18,419	10,219	11,585	12,309	10,474	8,584	5,074	136,670	1,474,811
		5,733	3,481	5,615	3,847	2,978	4,461	7,167	4,037	4,597	4,735	4,039	3,521	2,218	56,429	653,860
平成22年度		12,777	7,363	12,874	8,814	6,276	10,823	18,200	10,758	11,675	12,319	10,533	8,688	4,945	136,045	1,474,015
		5,686	3,666	5,788	3,995	3,129	4,388	7,389	4,399	4,696	4,980	4,228	3,683	2,294	58,321	681,581
平成27年度		12,360	7,479	12,621	8,569	6,241	10,544	17,772	10,732	11,393	12,410	10,661	8,951	5,738	135,471	1,475,183
		5,847	3,827	5,787	4,045	3,240	4,436	7,650	4,500	4,732	5,097	4,501	3,950	2,736	60,348	705,874

※上段…人口（人）、下段…世帯数（世帯）

※小野は勸修から分離、音羽川は音羽から分離、西野は山階・鏡山から分離

※国勢調査による（昭和51年度は推計）

山科区の年少人口構成比・高齢者人口構成比（高齢化率）の推移（学区別）

年度	学区	勸修	山階	鏡山	音羽	安朱	陵ヶ岡	大宅	山階南	百々	大塚	小野	音羽川	西野	山科区	京都市
昭和50年度		29.4	29.1	25.5	26.1	20.7	20.0	25.6	30.8	29.3	26.6					21.6
		4.5	4.9	5.4	5.4	9.0	8.7	3.6	4.1	4.0	4.7					8.9
昭和55年度		27.5	27.9	23.2	25.5	19.9	16.9	25.2	29.7	29.0	25.9	27.2	24.5		25.4	21.0
		5.1	5.8	7.1	6.5	11.8	13.1	4.5	4.6	5.1	4.6	4.8	6.0		6.5	10.4
昭和60年度		23.9	23.7	19.2	23.2	17.8	14.8	22.2	24.2	25.9	25.4	27.0	21.6	23.8	22.4	19.1
		6.2	7.5	8.8	7.9	12.8	16.2	6.1	5.7	6.2	7.2	6.1	7.4	5.5	7.9	11.4
平成2年度		18.6	16.9	14.8	18.0	15.3	11.7	17.7	18.1	18.4	19.5	21.4	17.3	16.8	17.2	15.8
		8.2	8.9	10.3	9.5	14.9	21.0	7.7	6.9	8.3	8.5	6.7	9.6	6.9	9.8	12.7
平成7年度		15.6	14.3	12.4	13.6	11.9	10.2	15.3	15.1	14.3	16.1	18.1	14.4	16.8	14.4	13.7
		10.5	10.7	12.2	12.0	17.9	24.2	10.4	8.6	10.0	10.0	8.1	12.5	8.6	11.9	14.6
平成12年度		14.2	11.8	12.5	11.5	10.7	9.0	14.1	14.3	13.1	15.2	16.4	14.2	15.3	13.3	12.7
		14.8	14.5	16.2	15.7	19.1	30.1	13.2	11.6	13.0	13.1	10.9	14.5	13.8	15.3	17.2
平成17年度		14.0	10.5	12.2	10.2	11.0	8.7	12.4	14.5	13.8	14.3	15.6	14.2	12.8	12.7	12.1
		18.2	19.6	20.3	19.6	20.3	33.9	15.6	16.3	16.7	16.5	13.5	17.4	20.7	18.9	20.1
平成22年度		12.9	10.1	12.0	10.4	10.4	9.4	11.8	15.2	14.6	13.8	14.5	13.4	11.1	12.5	11.9
		24.9	23.7	25.2	23.9	23.3	36.4	20.4	21.4	21.6	20.6	17.7	21.3	27.3	23.4	23.0
平成27年度		10.7	9.9	11.1	10.0	10.6	8.5	10.3	14.4	13.2	11.7	12.7	12.9	11.4	11.3	11.0
		31.3	27.7	29.1	31.1	24.4	38.3	25.8	26.1	29.1	28.5	23.1	24.4	23.3	28.5	25.8

※上段…年少人口比率（%）、下段…高齢者人口比率（高齢化率）（%）

※年少…15歳未満、高齢者…65歳以上

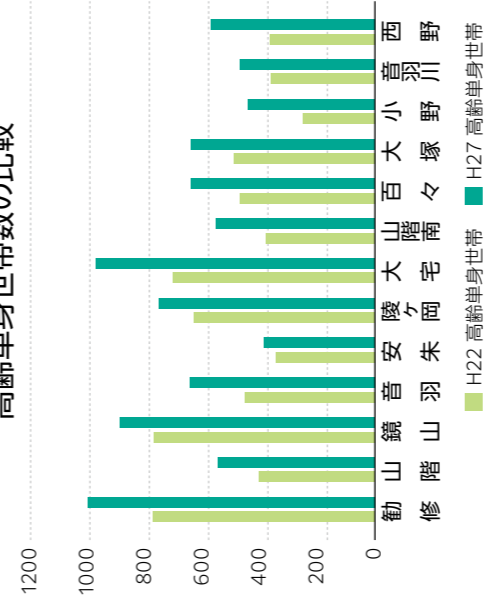
※国勢調査による

学区の概況

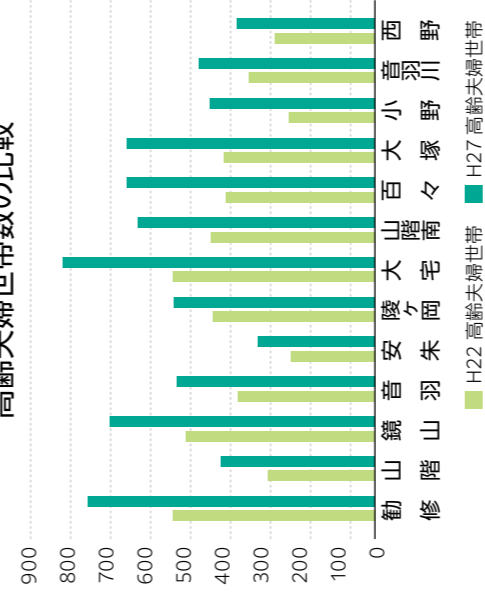
学区 指標	勸修	山階	鏡山	音羽	安朱	陵ヶ岡	大宅	山階南	百々	大塚	小野	音羽川	西野	山科区	京都市
面積 (km ²)	1,116	0,641	1,162	1,815	3,478	2,596	0,851	2,660	6,095	3,489	0,534	0,393	28,780	827,900	
人口 (人)	12,360	7,479	12,621	8,569	6,241	17,772	10,732	11,393	12,410	10,661	8,951	5,738	135,471	1,475,183	
年少人口 (人)	1,319	739	1,397	858	661	1,831	1,548	1,508	1,455	1,349	1,152	652	15,370	162,141	
構成比 (%)	10.7	9.9	11.1	10.0	10.6	10.3	14.4	13.2	11.7	12.7	12.9	11.4	11.3	11.0	
高齢人口 (人)	3,867	2,075	3,670	2,662	1,521	4,040	2,804	3,305	3,532	2,461	2,186	1,895	38,612	381,132	
構成比 (%)	31.3	27.7	29.1	31.1	24.4	38.3	26.1	29.0	28.5	23.1	24.4	33.0	28.5	25.8	
世帯数 (世帯)	5,847	3,827	5,787	4,045	3,240	4,436	4,500	4,732	5,097	4,501	3,950	2,736	60,348	705,874	
高齢単身世帯数 (世帯)	1,004	546	898	632	378	759	946	645	645	415	468	542	8,424	86,310	
高齢夫婦世帯数 (世帯)	756	404	691	538	302	518	620	645	640	425	457	355	7,166	135,454	
母子父子世帯数 (世帯)	151	53	93	55	36	59	174	95	89	100	71	90	1,157	140,961	
単身世帯数 (世帯)	2,361	1,779	2,289	1,618	1,626	1,944	3,050	1,312	1,431	1,677	1,602	1,089	23,104	319,562	
民生児童委員 (人)	18	10	20	13	10	18	22	13	15	14	12	11	10	182	2,322
主任児童委員 (人)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	26	406
老人福祉員 (人)	12	8	12	11	9	15	13	10	9	8	7	9	103	1,472	
保育所 (施設)	4	0	3	1	1	1	5	2	1	0	1	1	1	20	—
児童館 (施設)	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	12	—
児童福祉施設 (施設)	1	0	1	1	0	1	3	0	2	3	5	0	0	17	—
高齢者福祉施設 (施設)	11	7	7	6	0	6	13	0	8	9	14	2	6	89(注)	—
障害者福祉施設 (施設)	3	8	2	1	1	2	7	2	1	2	7	3	0	39(注)	—

※平成27年度国勢調査による。 ※高齢単身世帯数…65歳以上の単身世帯 ※高齢夫婦世帯…65歳以上の夫婦のみの世帯
 ※民生児童委員・主任児童委員・老人福祉員は、令和元年度定数。 社会福祉施設数は令和元年12月現在数値 (山科区福祉総合マップより)。
 ※高齢者福祉施設…老人福祉センター(2)、特別養護老人ホーム(10)、老人デイサービスセンター(50)、地域包括支援センター(5)、地域介護予防推進センター(1)
 ※障害者施設…生活介護事業所(7)、共同生活援助事業所(6)、就労継続支援事業所(24)、障害者地域生活支援センター(2) 注) 事業所の併設有り。
 ※児童福祉施設…母子生活支援施設(1)、児童(放課後等)デイサービス(16)

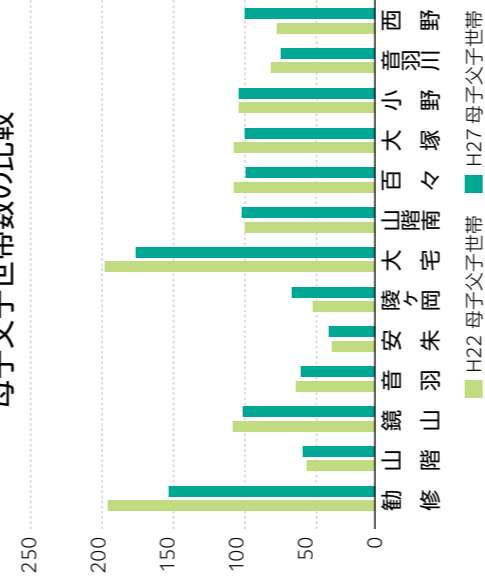
高齢単身世帯数の比較



高齢夫婦世帯数の比較

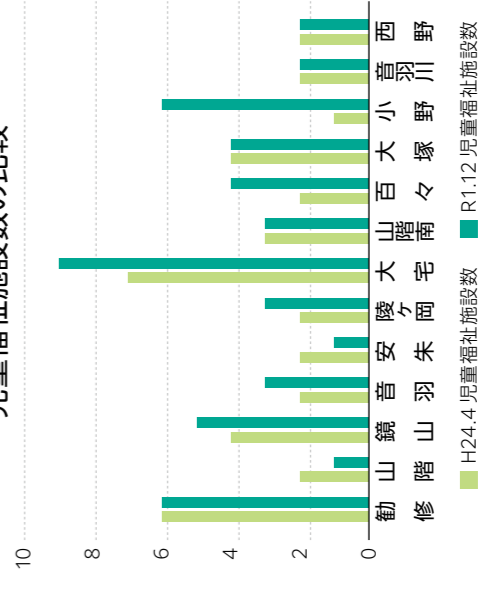


母子父子世帯数の比較

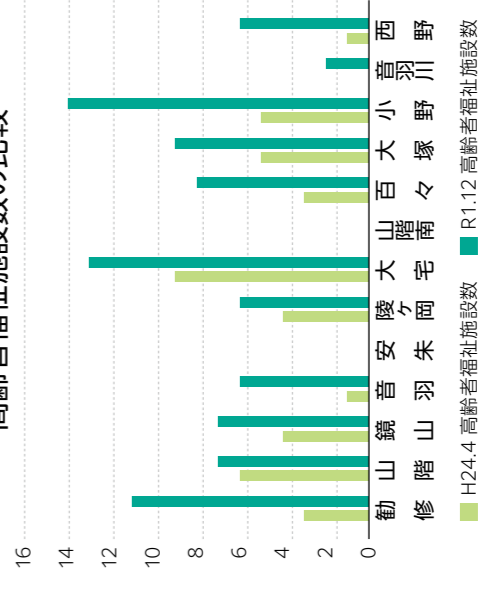


国勢調査データを前期と比較すると、高齢単身世帯数と高齢夫婦世帯数はすべての学区で増加しています。高齢者の孤立を促進させる要因として懸念されます。

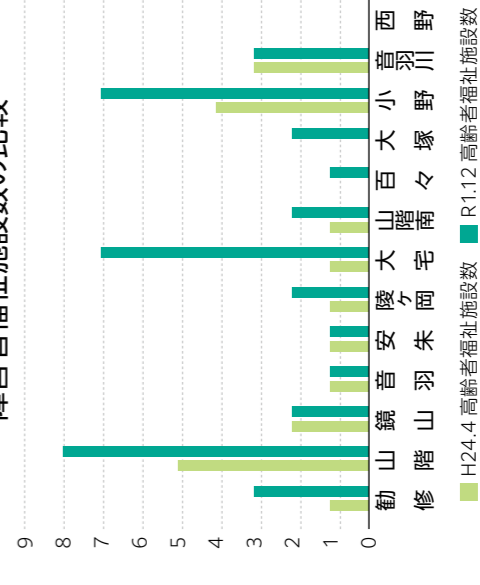
児童福祉施設数の比較



高齢者福祉施設数の比較



障害者福祉施設数の比較



平成24年4月と比較すると、児童・高齢・障害それぞれの福祉施設が顕著に増えました。社会福祉人では地域における公益的な取組がすすめられています。地域の一員として地域福祉のために連携・協働が進むことが期待されます。

地域福祉活動計画策定の経過

1. 地域課題・活動動向の把握(平成31年4月より随時)

- 各種団体代表者へのヒアリング(山科区社会福祉協議会 各部会にて実施)
- 学区社会福祉協議会へのヒアリング
- 関係機関、ネットワーク、地域福祉活動現場へのヒアリング(地域包括支援センター、障害者地域生活支援センター、各所「通いの場」、山科区地域福祉推進委員会、山科こころの健康を考える会、山科区市老協地域貢献プロジェクト、「通いの場」情報交換会、山科区の地域福祉を考える集い 他)

2. 策定のための協議・検討の経過

日程	会議名	テーマ	実施内容
令和元年6月24日(月)	第1回 山科区地域福祉推進委員会	・第4期地域福祉活動計画策定に向けて	目的説明と意見交換
令和元年7月18日(木)	第2回 学区社協会長会議	・第4期地域福祉活動計画策定に向けて	目的説明とヒアリングの調整
令和元年9月19日(木)	第3回 学区社協会長会議	・活動計画策定にむけたワークショップ	ヒアリング結果をもとに課題共有
令和元年10月24日(木)	第2回 山科区地域福祉推進委員会	・第4期地域福祉活動計画策定について	課題共有と目標設定についての意見交換
令和元年11月21日(木)	第4回学区社協会長会議	・活動計画策定にむけたワークショップ	学区重点目標設定についての協議
令和元年11月25日(月)	第3回理事会	・第4期地域福祉活動計画策定について	課題共有と目標設定についての協議
令和2年1月23日(木)	第5回学区社協会長会議	・第4期地域福祉活動計画策定について	学区重点目標の共有
令和2年2月20日(木)	第3回 山科区地域福祉推進委員会	・第4期地域福祉活動計画策定について	第4期地域福祉活動計画の内容の確認と修正についての協議
令和2年3月19日(木)	第6回学区社協会長会議	・第4期地域福祉活動計画策定について	第4期地域福祉活動計画の内容の確認と修正についての協議
令和2年3月24日(火)	第5回理事会	・第4期地域福祉活動計画策定について	第4期地域福祉活動計画の内容の確認と承認

2. 策定の関係者

山科区社会福祉協議会 理事会

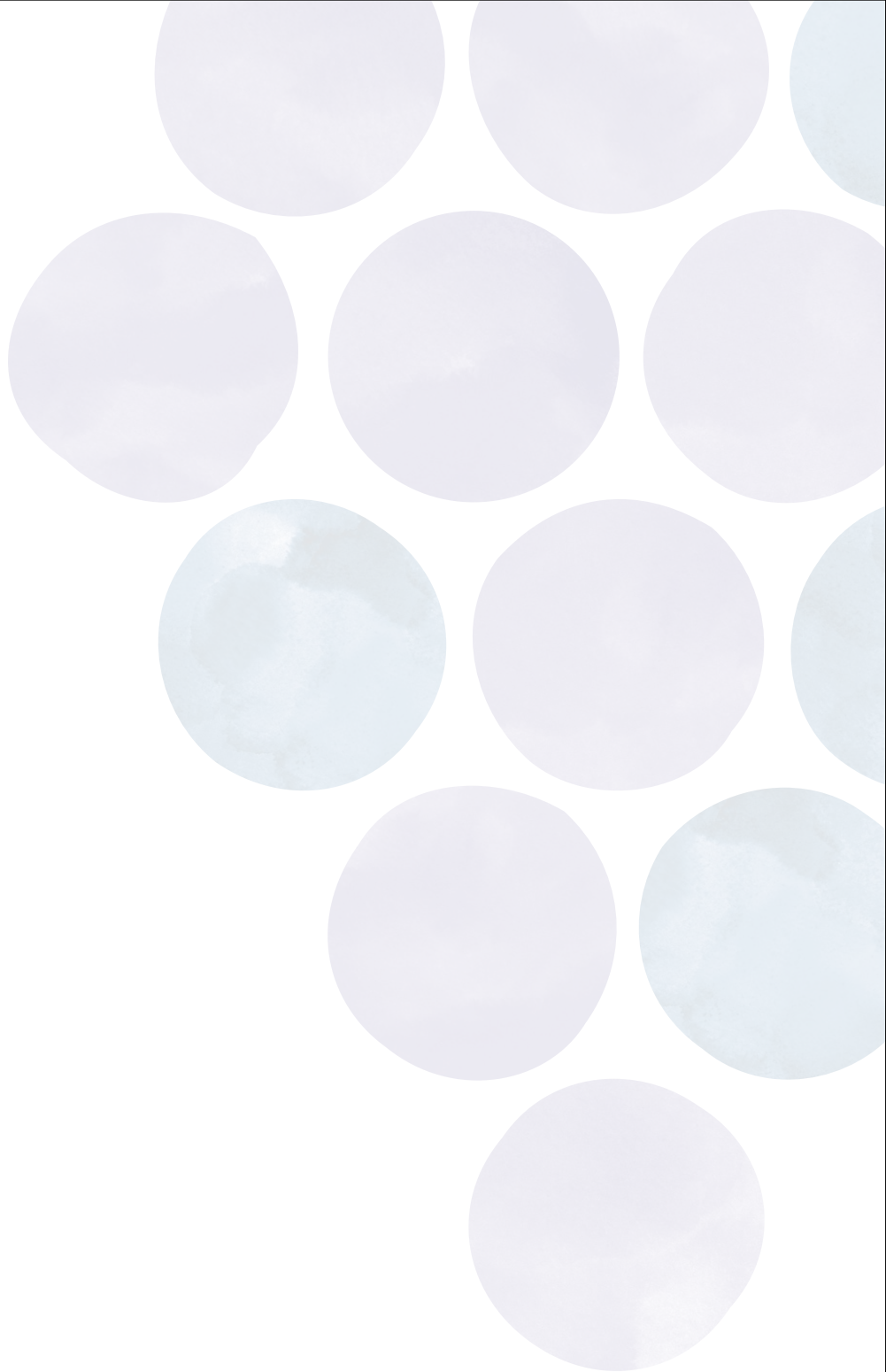
会長	佐治俊彦	大塚学区社会福祉協議会会長
副会長	堀井崇男	小野学区社会福祉協議会会長
副会長	太田八十一	山科区民生児童委員会会長(～R1.11.30)
副会長	前坂己美子	山科区民生児童委員会会長(R1.12.1～)
副会長	北村秀明	勧修学区社会福祉協議会会長
理事	内海敏	鏡山学区社会福祉協議会会長
理事	倉橋修	山階南学区社会福祉協議会会長
理事	松原直之	山科身体障害者福祉会館館長
理事	木下文男	山科区身体障害者団体連合会会長
理事	柳生勝儀	山科区老人クラブ連合会会長
理事	中尾力	山科区共同募金会会長
理事	佐伯久子	山科区地域女性連合会会長
理事	青木昭樹	山科区自治連合会連絡協議会会長会副代表
理事	川中長治	山科経済同友会会長
理事	藤川創	山科区役所保健福祉センター長
理事	小暮宣雄	京都橋大学現代ビジネス学部教授
監事	澤田眞司	税理士
監事	吉澤英樹	社会福祉法人役員
監事	西村京三	社会福祉行政経験者

学区社協会長会議

北村秀明	勧修学区社会福祉協議会会長
住友正歳	山階学区社会福祉協議会会長
内海敏	鏡山学区社会福祉協議会会長
酒井孝順	音羽学区社会福祉協議会会長
中澤博子	安楽学区社会福祉協議会会長
吉田義明	陵ヶ岡学区社会福祉協議会事務局長
丸山保夫	大宅学区社会福祉協議会会長
倉橋修	山階南学区社会福祉協議会会長
長谷川秀夫	百々学区社会福祉協議会会長
佐治俊彦	大塚学区社会福祉協議会会長
堀井崇男	小野学区社会福祉協議会会長
澤田清一	音羽川学区社会福祉協議会会長
角森範久	西野学区社会福祉協議会会長

山科区地域福祉推進委員会

京都市山科区社会福祉協議会 会長	佐治俊彦
京都市山科区社会福祉協議会 事務局長	吉川彰
山科区民生児童委員会 副会長(～R1.11.30)	杉原登志夫
山科区民生児童委員会 副会長(R1.12.1～)	地野隆
山科区民生児童委員会 主任児童委員	池田美千子
老人福祉員	平井清子
山科区保育園協議会 代表 山階保育園 園長	栗山美紀子
四ノ宮児童館 館長	山本陽子
山科青少年活動センター 所長	宮川知子
就労継続支援B型事業所 オリーブホットハウス 施設長	勇川昌史
京都市東部障害者地域生活支援センターらくとう 副主任	山下笑子
特別養護老人ホーム長楽園 副施設長	小林大介
山科区地域包括支援センター連絡協議会 代表 京都市大宅地域包括支援センター センター長	菊間智哉
山科区身体障害者団体連合会 会長	木下文男
京都手をつなぐ育成会山科支部 支部長	大河内清子
山科区老人クラブ連合会 副会長	土田絹枝
山科区地域女性連合会 会長	佐伯久子
山科少年補導委員会 副会長	平野一男
山科医師会 会長	戎井浩二
山科区自治連合会連絡協議会会長会 代表	内海敏
山科経済同友会 会長	川中長治
山科ボランティアグループ連絡会 わの会 代表	西谷千賀子
山科子育て応援団 だんごやましくらぶ 代表	板野美由紀
山科醍醐こどものひろば 理事長	村井琢哉
小学校校長会山科支部 代表 安朱小学校 校長	加村和美
中学校校長会山科・醍醐支部 山科区代表 勸修中学校 校長	竜田潤一
京都橘大学 現代ビジネス学部 教授	小暮宣雄
山科区役所 地域力推進室 室長	人見早知子
山科区役所 保健福祉センター 健康福祉部 部長	藤川創
山科区役所 子どもはぐくみ室 室長	小嶋明
【監事】山科区民生児童委員会 会長	太田八十一
【オブザーバー】京都橘大学現代ビジネス学部教授	高原正興



令和2(2020)年3月 発行

第4期 山科区地域福祉活動計画

社会福祉法人 京都市山科区社会福祉協議会

〒607-8344 京都市山科区西野大手先町2-1

TEL 075-593-1294 FAX 075-594-0294